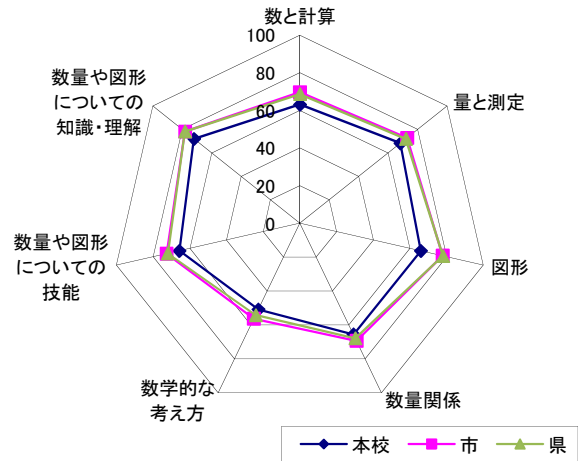


宇都宮市立御幸が原小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.1	69.6	68.7
	量と測定	68.2	72.8	72.0
	図形	65.9	77.8	78.0
	数量関係	65.6	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	50.9	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	65.7	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	72.0	78.2	78.1



★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は63.1%で、県・市の平均を下回っている。特にかけ算やわり算の正答率が低く、これはかけ算九九の定着が不十分なため、けた数の多いかけ算やわり算の正解が低くなっていると思われる。また、分数の設問の正答率が市の平均を大きく下回っている。	・朝の計算練習やドリル等を活用し、できるだけ多くの問題を解いて繰り返し練習することで、定着を図りたい。また、けた数が多くなることで意欲の低下が見られるので、進んで取り組めるように達成感を味わえるような取り組みせ方の工夫が必要である。特に個別につまずいている計算を見つけ、計算の仕方を指導していきたい。
量と測定	●領域の平均正答率は68.2%で県・市の平均を下回っている。特に、重さを読み取る設問やある一定時間前の時刻を求める設問の正答率が低くなっている。そのため、全体として平均正答率が低くなってしまったと思われる。	・今まで学習してきた単位（長さ、重さ、かさ、時間、面積）を表にまとめて教室に掲示し、整理して覚えるようにするなど、苦手意識をなくすように工夫して指導していきたい。また、社会や理科の学習や日々の生活の場面で、様々な単位が使われていることを意識して取扱い、量感を感じ取らせるようにしていきたい。
図形	●領域の平均正答率は65.9%で県・市の平均を大きく下回っている。円や球の設問、二等辺三角形や正三角形の設問などの正答率が低い。これは、学習したことが定着していないため、言葉や作図の仕方を忘れてしまった児童が多かったと思われる。	・円と球の学習では、ボールや模型を使うなどして、視覚的、感覚的に理解させることを大切にして学習を進めていく必要がある。図形では、各部分の名称を覚えることも大切なので、しっかり覚えることができるよう繰り返し練習をしていく。また、図形の作図では、コンパスの使い方や線の引き方など個人差があるので、作図のコツを教えるといった指導の工夫が必要である。
数量関係	●領域の平均正答率は65.6%で県・市の平均を下回っている。特に棒グラフの読み取りの設問の正答率が低くなっており、正しいグラフの読み取りに課題が見られる。	・表やグラフを正しく作成したり、読み取ったりすることで数量関係を分かりやすく整理する技能を定着させていくことが必要である。その際、1目もりに注目させて考えていくことを大切に指導していきたい。また、社会科ではグラフ資料の読み取ったり、理科では記録をグラフに表したりして、他教科でも考察する学習を多く取り入れて、数量に対する見方の力を付けさせたい。